



木造による中高層や大規模建築、スケルトン躯体の研究開発、制振技術などを活用し、新しい木造建築の可能性を広げるべく、積極的に研究開発活動を進めています。

### 略歴

1965年4月生まれ、博士(工学)、一級建築士。明治大学大学院 理工学研究科 建築学専攻 博士課程 修了。旭化成工業、住友林業にて、主に新しい木質構造の技術開発や商品開発を実施。スウェーデン王立SP技術研究所でプロジェクトリーダー(現地駐在)を経て現職。東京理科大学非常勤講師等。本学体育会スキー部顧問。

### 所属学会など

- ・日本建築学会 (木質構造関連委員会、木質構造教育プログラム策定委員会幹事、他)
- ・木質構造研究会 (理事)
- ・建築研究開発コンソーシアム
- ・ICTB 2017 (International Scientific Committee) 他

## 研究紹介

## 木質構造に関する研究



**極大地震時における緊急損傷判定技術の開発**  
緊急時に木造住宅の損傷度合を応急判断できる診断装置の開発を進めています。大地震発生直後の居住者の不安を軽減すべく、新築既存に関わらず、専門家でなくとも居住者自らが応急判断できる手法を目的としています。



**制振耐力壁・木造耐力壁の劣化抑制に関する研究開発**  
粘性材料や摩擦材料を活用して耐力壁の経年劣化を抑制、かつ極大地震でも損傷を大幅に低減させます。



**CLT中高層木造建築の開発**  
力学特性を把握し、設計に活かせるようラミナの組合せをパラメータとしたCLT梁の曲げせん断実験や接合部実験等を行っています。

### 共同研究の事例

- ・制振耐力壁・木造耐力壁の劣化抑制に関する研究 (京大防災研究所、京大生存圏研究所、企業)
- ・木造ラーメン構造の開発 (企業との共同研究)
- ・木造住宅の外張り断熱工法が外壁の耐震性能に及ぼす影響に関する研究 (企業と共同研究)
- ・長ビスを用いたCLT 壁脚部の座屈耐力の向上
- ・CLT構造の設計法検討のための実大震動台実験 (国の研究所、複数大学、企業との共同研究)

### 主な論文発表

- ・Hideyuki Nasu; Keynote Presentation, Examples of Japanese wooden bridges and Japanese wooden structures, ICTB, Sweden 2017 June
- ・那須秀行 他; 中層大規模木造を対象とした壁柱構法の実験的研究, 日本建築学会大会 2017
- ・STUDY ON SUPPRESSION EFFECT AGAINST STRUCTURAL PERFORMANCE DEGRADATION OF WOODEN SHEAR WALLS BY USING DAMPING MATERIALS, WCTE, Austria 2016 August

## お問合せ

345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1  
日本工業大学 建築学部 建築コース 那須 秀行  
Tel. 0480(33)7701 (直通), E-mail : nasu.hid@nit.ac.jp